

令和4年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科：(国語) 科目：(現代文) 対象：(第3学年 A組～F組)

科目担当者：

教科・科目の 指導目標	近代以降の様々な文章、特に評論文を中心とした文章の構成・要旨・展開などを的確にとらえる能力を高める。 近代以降の様々な文章を読むことで、ものの見方・感じ方・考え方を深め、主体的に表現できる力を高める。
----------------	---

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	1 国語知識 説明的文章における語句の知識 ■ 同訓異字の知識 ■ 類義語の理解 ■ 語彙（慣用句）の知識 ■ 語彙（四字熟語）の知識 ※上記項目においては、ほぼ平均である。 2 現代文（評論） 思考力・判断力・表現力は全国平均レベル。共通テストを見据えた学習継続する。 近代文学史は、これまでの学習で触れてこなかったが、大学入試や看護系の入試で出題傾向にある。 3 現代文（小説） 全体趣旨の理解、語句の意味の理解、心情の理解がやや不十分である。	1 説明的文章において、特に形式段落・意味段落ごとの内容を捉えた上で、全体構成を的確にとらえる力を身につけ、要約力を高める。 2 小説における場面や人物の設定がその後の話にどのような働きをもたらしているかを把握し、説明することができる力を高める。 3 必要な情報を用いて、相手や目的、課題に応じた適切な表現力を身につけるとともに、漢字・慣用句等の知識を身につける。適宜、演習の時間を設け、実践的な学習を習慣づける。 4 定期考査などを利用し、近代文学史の学習時間を確保する。	教科会で下記の指導方針を確認する。 1 漢字の小テストを月2回実施する。 2 説明的文章に使用される語句の難解なものについては副教材などを利用しながら補足指導を行う。 3 様々なテーマの文章に触れさせ、多角的な視点から文章を読むことができるよう指導する。 4 要旨をつかめるよう150～200字要約に取り組ませる。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			